

目次

はしがき iii

第1章 入門実技	1
第1節 上肢	3
第1項 指節間関節（指の関節）	3
指節間関節	3
（理論）	3
（実技）	4
指節間関節捻挫に対する整復	4
（整復）	4
（第2～5指指節間関節過屈曲捻挫に対する安達の整復法）	4
（後療法）	5
第2項 手関節（手首の関節）	7
手関節	7
（理論）	7
（実技）	9
手根管症候群に対する整復	9
（実技の理論）	9
（整復）	10
下橈尺関節	10
（理論）	10
（実技）	11
下橈尺関節に対する整復	11
（整復）	11
第3項 肘関節（肘の関節）	11
上腕骨上顆	11
（理論）	11
（実技）	14
（整復）	14
第4項 肩の関節	15
1. 肩関節（肩甲上腕関節）	15
回旋筋腱板損傷（rotator cuff injury）	15

(理論)	15	
肩関節周囲炎 (periarthritis scapulohumeralis) いわゆる五十肩 (frozen sholder)		16
(理論)	16	
(実技)	17	
肩関節 (肩甲上腕関節) 捻挫、特に回旋筋腱板損傷および肩関節周囲炎に対する 整復	17	
(実技の理論)	17	
(整復)	19	
(肩関節〈肩甲上腕関節〉に対する整復法)	20	
(上腕三頭筋長頭の整復法)	20	
(リハビリテーション〈rehabilitation〉としてのモビライゼーション〈mobilization〉 〈側臥位〉)	20	
(リハビリテーション〈rehabilitation〉としてのコッドマン・エクササイズ〈Codman's exercise〉)	21	
〔物理療法について〕	21	
2. 肩鎖関節	27	
胸郭出口症候群・肩鎖関節捻挫および不全脱臼 (亜脱臼)	27	
(理論)	27	
(実技)	31	
胸郭出口症候群・肩鎖関節捻挫および不全脱臼 (亜脱臼) に対する整復	31	
(整復)	31	
(胸郭出口症候群に対する整復法)	31	
〈鎖骨の整復法〉	31	
〈安達の肩甲骨の整復法〔坐位〕〉	31	
(肩鎖関節捻挫および不全脱臼〈亜脱臼〉に対する整復法)	32	
〈デパルマによる整復法〉	32	
〈一般的な整復法〉	32	
〈術者単独による一般的整復法〉	32	
第5項 上肢に関する実技審査と口頭試問		33
第2節 下肢		35
第1項 足部・足関節		35
扁平足・外脛骨・開張 (拝) 足・外反母趾 (指)	35	
(理論)	35	
(実技)	37	
足部特に扁平足・外脛骨・開張 (拝) 足・外反母趾 (指) に対する整復	37	
(整復)	37	
(扁平足に対する安達の整復法)	37	
(外脛骨〈Os tibiale externum〉による圧痛に対する安達のテーピング法)	37	
(開張〈拝〉足の整復法)	37	

(外反母趾〈指〉に対する整復法)	38
(外反母趾〈指〉に対するテーピング法)	38
足関節	38
(理論)	38
(実技)	42
足関節捻挫に対する整復	42
(整復)	42
(足関節捻挫に対する整復法)	42
〈遠位脛腓関節前方不全脱臼〔亜脱臼〕に対する安達の整復法〔腹臥位〕〉	43
〈遠位脛腓関節後方不全脱臼〔亜脱臼〕に対する安達の整復法〔腹臥位〕〉	43
〈舟状骨および各中足骨底の上下側不全脱臼〔亜脱臼〕に対する入門実技としての整復法〉	43
〈遠位脛腓関節離開に対する安達の整復法—術者と助手の2人による方法—〉	44
〈遠位脛腓関節離開に対する安達の整復法—術者1人による方法—〉	44

第2項 膝関節 45

膝蓋大腿関節症・変形性膝関節症	45
(理論)	45
(実技)	47
膝蓋大腿関節症・変形性膝関節症に対する整復	47
(整復)	47
(膝蓋大腿〔Patella-Femur〕関節症に対する膝関節の整復法〔膝蓋大腿〔Patella-Femur〕関節症による下腿および膝蓋骨の癒着に対するモビライゼーション〕)	47
(変形性膝関節症に対する膝関節の整復法〔変形性膝関節症による膝関節の癒着に対するモビライゼーション〕)	48
(変形性膝関節症による関節拘縮に対する運動療法としての関節可動域訓練の1例)	48
膝内障	51
(理論)	51
(実技)	53
膝内障に対する整復	53
(整復)	53
(膝内障〔内・外側半月板のハイパーモビリティと前・後十字靭帯および内・外側側副靭帯の捻転など〕に対する膝関節の整復法〔内・外側半月板の嵌屯〔頓〕症状を除く〕)	53
内・外側半月板嵌屯〈頓〉(かんとん)・膝関節水腫	54
(理論)	54
(実技)	55
内・外側半月板嵌屯〈頓〉(かんとん)・膝関節水腫に対する整復	55
(整復)	55
(内・外側半月板の嵌屯〈頓〉(かんとん)症状に対する膝関節の整復法)	55
(膝関節水腫〔浮腫あるいは腫脹〕に対する保存的〔非観血的〕治療について)	56

オスグッド・シュラッター (シュラッテル) 病	56
(理論)	56
(実技)	57
オスグッド・シュラッター (シュラッテル) 病に対する整復	57
(整復)	57
(オスグッド・シュラッター (シュラッテル) 病に対する膝関節の整復法)	57
第3項 股関節	58
股関節	58
(理論)	58
(実技)	60
股関節における挫傷・拘縮などに基づく炎症による癒着に対する整復	60
(整復)	60
(股関節における癒着に対するモビライゼーション)	60
ベルテス病	63
(理論)	63
(実技)	65
ベルテス病に対する予防	65
(実技の理論)	65
(整復)	66
(ベルテス病予防のための体操)	66
第4項 下肢に関する実技審査と口頭試問	66
第3節 体幹	69
第1項 骨格	69
第1節 骨の構造	69
第2節 骨髄	70
第3節 造血	70
第2項 骨格の老化とその予防	70
(脊柱の生理的弯曲を保つための姿勢の注意)	74
第3項 骨盤	75
骨盤特に変形性股関節症・生理痛・生理不順、尾骨不全骨折	75
(理論)	75
1. 寛骨	76
2. 仙骨	76
3. 尾骨	77
4. 変形性股関節症	79
5. 女性生殖器	81
(実技)	84

骨盤特に変形性股関節症・生理痛・生理不順・尾骨不全骨折に対する整復 84

1. 寛骨 84

(整復) 84

(寛骨〈ASIS〉の軽度AS偏位に対する〈大・小腰筋の弛緩を図る〉整復法) 84

(寛骨〈ASIS〉のAS偏位に対する整復操作) 84

2. 仙骨 85

(実技の理論) 85

(整復) 85

(仙骨底前下方転位に対する整復法) 85

3. 尾骨 88

(整復) 88

(尾骨不全骨折に対する整復法) 88

4. 変形性股関節症 88

(整復) 88

第4項 腰椎 88

椎間関節症候群・脊椎分離症・脊椎汙り症・腰椎椎間板ヘルニア 88

(理論) 88

1. 椎間関節症候群 (facet syndrome) 88

2. 脊椎分離症・脊椎汙り症 (spondylolysis・spondylolisthesis) 90

3. 腰椎椎間板ヘルニア (Lumbar disc herniation) 91

(実技) 94

腰椎特に脊椎分離症・脊椎汙り症に対する整復 94

(整復) 94

(脊椎分離症・脊椎汙り症に対する整復法—脊椎分離症から脊椎汙り症への移行を予防するためのウィリアムズ体操 (Williams exercise) の変法における介助法—) 94

(実技) 95

腰椎特に腰椎椎間板ヘルニアに対する整復 95

(実技の理論) 95

(整復) 95

(腰椎椎間板ヘルニア〈軽度の場合〉に対する安達の体幹捻転法) 95

第5項 胸椎 98

椎体の(楔状)圧迫骨折・肋椎関節の偏位および癒着・特発性側弯症 98

(理論) 98

1. 椎体の(楔状)圧迫骨折 (compression fracture) 98

2. 肋椎関節 98

3. 特発性側弯症 (Idiopathic Scoliosis) 105

(実技) 107

胸椎特に椎体の(楔状)圧迫骨折に対する予防 107

(実技の理論) 107

(整復)	107	
(後弯過度 (hyper-kyphosis) に対する入門実技としての安達の軽度の姿勢矯正法すな わち整復法)	107	
(実技)	108	
胸椎特に肋椎関節の偏位・癒着に対する整復	108	
(実技の理論)	108	
(整復)	109	
(肋椎関節の癒着に対する入門実技)	109	
〈上部〈位〉〈第1～第7〉肋椎関節における癒着に対する整復法〉	109	
〈下部〈位〉〈第8～第12〉肋椎関節における癒着に対する整復法〉	111	
(実技)	111	
胸椎特に特発性側弯症に対する矯正運動	111	
(整復)	111	
(側弯矯正運動)	111	
第6項 頸椎	113	
頸椎特に椎間関節	113	
(理論)	113	
(実技)	116	
頸椎特に椎間関節の転位に対する整復	116	
(整復)	116	
(入門実技としての頸椎の手による牽引法)	116	
(入門実技としての頸椎の転位に対する整復法)	118	
第7項 顎関節 (側頭下顎関節)	119	
顎関節 (側頭下顎関節) 特に顎関節症	119	
(理論)	119	
(実技)	123	
顎関節 (側頭下顎関節) 特に顎関節症に対する徒手矯正法	123	
(整復)	123	
(顎関節症における軽度徒手的矯正法)	123	
(顎関節痛における頬筋・咬筋および顎舌骨筋・顎二腹筋に対する弛緩法)	123	
第8項 体幹に関する実技審査と口頭試問	124	
第4節 軟組織	127	
第1項 頭部	127	
三叉神経痛・顔面神経麻痺・副鼻腔炎	127	
(理論)	127	
(脳神経)	127	
(眼の構造)	130	
(耳の構造)	130	

(実技)	132
三叉神経痛の緩和・顔面神経麻痺の軽減・副鼻腔の循環の回復	132
(整復)	132
(入門実技としての顔面の治療法)	132

第2項 胸部 133

自律神経失調症などストレス性諸疾患・更年期障害など内分泌系のからむ諸症状	133
(理論)	133
〈肺臓〉	133
〈心臓〉	135
(実技)	136
自律神経失調症などストレス性諸疾患・更年期障害など内分泌系のからむ諸症状 に対し用い効能のある用手人工呼吸法	136
(実技の理論)	136
〈ストレスと自律神経系・内分泌系の諸疾患〉	136
(整復)	140
(入門実技としての用手人工呼吸法)	140
〈ジルベスター〔Silvester〕法—妊産婦など腹部を圧迫できない場合に適す—〉	140
〈ニールセン〔Nielsen〕法—小児など弱者の場合に適す—〉	140
〈シェーファー・エマーソン・アイヴィ法—上肢麻痺者など上肢を動かさない場合に 適す—〉	141

第3項 腹部 141

腹部触診・消化不良・結腸性便秘・内臓体性反射	141
(理論)	141
〈胃〉	141
〈脾臓と十二指腸〉	142
〈空回腸〉	142
〈大腸〉	144
(実技)	150
腹部触診および消化不良などに対する整復	150
(整復)	150
(腹部触診)	150
(入門実技としての消化不良などに対する円周掌圧運動)	150

第2章 実践応用技法 153

第1節 上肢 155

第1項 指節間関節(指の関節) 155

(実技)	155
母指を外転しづらく無理に外転しようとすると同部位に痛みを覚える場合	155
(整復)	155

第2項 手部・手関節 (手首の関節)	156
(実技) 156	
(整復) 156	
(第2～第5中手骨基底部浮上偏位に対する実践応用技法としての整復法)	156
(軽度の場合の整復法)	156
(重度の場合の整復法)	157
(舟状骨の内旋偏位に対する整復法)	158
(月状骨の内旋偏位に対する整復法)	158
(手根管症候群に対する実践応用技法としての手関節の整復法)	158
(手根管症候群の橈屈位に対する実践応用技法としての手関節の微調整法)	159
(橈骨茎状突起炎に対する整復法)	159
(尺骨茎状突起炎に対する整復法)	160
(前腕骨間膜炎に対する整復法)	160
第3項 肘関節 (肘の関節)	160
(実技) 160	
1度から2度までの損傷に対し軽度から中度の整復を試みようとする場合	160
(整復) 160	
(上腕骨外側上顆炎および内側上顆炎に対する実践応用技法としての整復法)	160
(実技) 161	
2度までの損傷に対し中度の整復を試みようとする場合	161
(整復) 161	
(上腕骨外側上顆炎および内側上顆炎に対する実践応用技法としての 安達の整復法)	161
(実技) 163	
肘頭の尺骨神経溝周囲の疼痛が消失しない場合	163
(実技の理論) 163	
(整復) 163	
(前述の入門実技および上記の実践応用技法を用いてなお尺骨神経溝周囲の疼痛の消 失しない場合における安達の尺骨神経管促通法)	163
(実技) 164	
難治性肘内障に対する整復	164
(実技の理論) 164	
(整復) 165	
(難治性肘内障に対する整復法)	165
第4項 肩の関節	165
1. 関節 (肩甲上腕関節)	165
(実技) 165	
回旋筋腱板損傷 (特に棘上筋炎) に対する整復	165
(整復) 165	

(回旋筋腱板損傷における棘上筋腱炎に対する実践応用技法としての整復法)	165
(実技)	166
肩関節〈肩甲上腕関節〉偏位に対する整復	166
(整復)	166
(肩関節〈肩甲上腕関節〉偏位に対する実践応用技法としての整復法)	166
(実技)	166
上腕二頭筋および三頭筋の長頭腱炎に対する整復法	166
(整復)	166
(上腕二頭筋長頭腱炎〈結節間溝からの偏位を含む〉に対する実践応用技法としての整復法)	166
(上腕三頭筋長頭腱炎に対する実践応用技法としての整復法)	167
(実技)	168
三角筋腱炎および肩甲挙筋腱炎(頸肩腕部痛)に対する整復法	168
(整復)	168
(三角筋腱炎に対する実践応用技法としての整復法)	168
(肩甲挙筋腱炎〈頸肩腕部痛〉に対する実践応用技法としての整復法)	168
2. 肩鎖関節・胸鎖関節	169
(実技)	169
肩鎖関節特に肩鎖関節捻挫および不全脱臼〈亜脱臼〉に対する整復	169
(整復)	169
(肩甲骨の実践応用技法としての整復法)	169
(肩鎖関節捻挫および不全脱臼〈亜脱臼〉に対する実践応用技法としての整復法)	169
(実技)	171
胸郭出口症候群に対する整復	171
(整復)	171
(広義における第3・4・5肋骨とそれらの肋骨の上縁外側面に起始し肩甲骨の烏口突起に付着する小胸筋などによる構成に対する整復法)	174

第2節 下肢 179

第1項 足部・足関節 179

(実技)	179
足部特に扁平足に対する整復	179
(整復)	179
(扁平足に対する実践応用技法としての整復法)	179
(楔状骨の底側偏位に対する整復法)	181
(足底筋膜炎に対する緩和法)	181
(足底筋膜炎・シンスプリント等における前脛骨筋に対する整復法)	182
(足底筋膜炎・シンスプリント等における長腓骨筋に対する整復法)	182
(足底筋膜炎・外脛骨等における舟状骨に対する整復法)	182
(立方骨の底側偏位に対する整復法)	183

(踵骨痛に対する緩和法)	184
(開張〈痒〉足に対する実践応用技法としての整復法)	184
(実技)	186
足関節特に足関節捻挫に対する整復	186
(整復)	186
(舟状骨および各中足骨底の上外側不全脱臼〈亜脱臼〉に対する実践応用技法としての整復法)	186
(距骨前方不全脱臼〈亜脱臼〉に対する実践応用技法としての整復法)	186
(距骨後方不全脱臼〈亜脱臼〉に対する実践応用技法としての整復法)	187
(腓骨頭の偏位に伴う足関節すなわち距腿関節における tenon (柄〈ほぞ〉)-and-mortise (嵌接〈はめつぎ〉) joint 構造すなわち柄(ほぞ)一柄穴(ほぞあな)関節構造の不整合に対する整復法)	189
第2項 膝関節	189
(実技)	189
膝関節特に膝内障に対する整復	189
(整復)	189
〈膝関節伸展不全の場合に対するモビライゼーション〉	189
(膝窩筋膜炎およびペーカー嚢腫に対する緩和法)	190
(膝内障〈内・外側半月板のハイパーモビリティと前・後十字靭帯および内・外側側副靭帯の捻転など〉に対する膝関節の整復法〈内・外側半月板の嵌屯〈頓〉症状を除く〉)	190
〈内・外側側副靭帯の捻転などに対する膝関節の整復法〉	190
(膝内障における内・外側側副靭帯損傷に対する各微調整法)	191
〈内側側副靭帯損傷に対する単独微調整〉	191
〈外側側副靭帯損傷に対する単独微調整〉	191
(内・外側半月板の嵌屯〈頓〉症状に対する膝関節の整復法)	192
(重度の場合)	192
〈内側半月板の場合〉	192
〈外側半月板の場合〉	192
(ハムストリング〈内側から半腱様筋・半膜様筋・大腿二頭筋〉の緊張による股関節屈曲制限による脛骨内側顆および外側顆における圧痛に対する整復法)	192
(内・外側半月板の後方偏位に対する実践応用技法)	193
(内・外側半月板の後方偏位に対する実践応用技法の安達による応用変法)	194
〈外側半月板の場合〉	194
〈内側半月板の場合〉	194
(前・後十字靭帯の捻転に対する実践応用技法)	194
第3項 股関節	195
(実技)	195
股関節特に変形性股関節症に対する整復	195
(整復)	195

(股関節における挫傷・拘縮などに基づく炎症による癒着に対する関節可動域回復のための実践応用技法としての整復法) 195

(実技) 198

ペルテス病予防のための肢位・姿勢 198

(整復) 198

(ペルテス病 (Perthes disease あるいは Legg-Calvé-Perthes disease) の予防) 198

(実技) 199

思春期における股関節からの O 脚矯正 199

(実技の理論) 199

(整復) 199

(成長期 (14~20 歳) における股関節からの O 脚矯正) 199

第 3 節 体幹 201

第 1 項 骨盤 201

(実技) 201

寛骨・仙骨・尾骨の偏位に対する整復 201

(整復) 201

1. 寛骨 201

(ディアフィールド・チェック) 201

(AS の整復法) 201

(PI の整復法) 202

(PI の整復の変法) 202

(寛骨 (上前腸骨棘) 前下方偏位に対する実践応用技法としての安達の整復法 (Adachi's adjustment of Pelvis)) 203

(仙腸関節 (上前腸骨棘) 外方偏位に対する実践応用技法としての安達の整復法 (Adachi's adjustment of External Sacro-iliac joint (ASIS))) 204

(恥骨結合に対する動的触診) 205

(恥骨前上方偏位に対する実践応用技法としての恥骨整復法) 205

(恥骨結合に対する動的触診) 206

(恥骨後下方偏位に対する実践応用技法としての安達の恥骨整復法) 206

(恥骨偏位に対する実践応用技法としての恥骨整復法) 207

(恥骨筋炎に対する実践応用技法としての整復法) 207

(鼠径部の圧痛に対する整復法) 208

(外腹斜筋に対する整復法) 208

(鼠径靭帯に対する整復法) 208

(鼠径部の最上部の圧痛に対する整復法) 209

(上前腸骨棘 [ASIS] 上部に圧痛があり大腿筋膜張筋の緊張により股関節内転制限がある場合に対する整復法) 209

(上前腸骨棘 [ASIS] 上部に圧痛があり縫工筋の機能障害および緊張により股関節内旋制限がある場合に対する整復法) 209

(鼠径部の中央部の圧痛に対する整復法) 210

2. 仙骨	210
(実技)	210
仙骨特に仙骨底の偏位に対する整復	210
(実技の理論)	210
(整復)	211
(実践応用技法としての安達の仙骨底前方偏位に対する整復法〈Adachi's adjustment of anterior sacral base〉)	211
(実践応用技法としての仙骨底後方偏位に対する整復法〈小児の場合〉〔Adjustment of posterior sacral base (children's case)〕)	212
(小児の夜尿症の場合)	213
3. 尾骨	214
(実技)	214
尾骨特に尾骨不全骨折による前方偏位に対する整復	214
(整復)	214
(尾骨不全骨折に対する実践応用技法としての整復法)	214
4. 寛骨偏位に基づく変形性股関節症	215
(実技)	215
寛骨偏位特に寛骨前下方偏位による変形性股関節症に対する整復	215
(整復)	215
(寛骨〈上前腸骨棘〉前下方偏位に対する実践応用技法としての安達の整復法〈Adachi's adjustment of Pelvis〉)	215
5. 寛骨偏位および仙骨偏位に基づく生理痛	215
(実技)	215
寛骨偏位特に寛骨前下方偏位および仙骨偏位特に仙骨底前方偏位に基づく生理痛に対する整復	215
(整復)	215
(寛骨〈上前腸骨棘〉前下方偏位に対する実践応用技法としての安達の整復法〈Adachi's adjustment of Pelvis〉) および (実践応用技法としての安達の仙骨底前方偏位に対する整復法〈Adachi's adjustment of anterior sacral base〉)	215

第4項 腰椎 216

1. 椎間関節症候群 (facet syndrome)	216
(実技)	216
腰椎特に椎間関節の偏位に対する整復	216
(整復)	216
(静的触診)	216
(腰椎椎間関節症候群およびそれによるインピンジメント現象に対する整復法)	216
(腰椎凸弯曲で頂点の横突起が後方偏位しているような特殊な場合の整復法)	217
(腰殿部あるいは胸腰部に後弯過度〈ハイパー・カイホーシス〔Hyperkyphosis〕) のみられるような特殊な場合の整復法)	218

(寛骨仙腸関節面および腰椎椎間関節面の実践応用技法としての微調整法)	219
2. 脊椎分離症・脊椎沁り症 (spondylolysis・spondylolisthesis)	220
(実技)	220
腰椎特に椎弓部における分離症・沁り症に対する整復	220
(整復)	220
3. 腰椎椎間板ヘルニア (Lumbar disc herniation)	223
(実技)	223
腰椎特に椎間板におけるヘルニアに対する整復	223
(整復)	223
(椎間板ヘルニア〈重度の場合〉の実践応用技法としての調整法)	223
4. 梨状筋症候群 (Piriformis Syndrome)	226
(実技)	226
梨状筋症候群に対する整復	226
(整復)	226
(実践応用技法としての梨状筋症候群に対する仙結節靭帯および仙棘靭帯の 整復法)	226
(実践応用技法としての梨状筋症候群に対する梨状筋の整復法)	227
(実践応用技法としての梨状筋症候群に対する運動療法)	228
(実践応用技法としての坐骨神経痛緩和法)	228
(実践応用技法としての腰方形筋腱炎に対する腰方形筋の整復法)	232

第5項 胸椎 233

1. 椎体の(楔状)圧迫骨折 (compression fracture) の予防	233
(実技)	233
胸椎特に中・下部(位)胸椎の後弯過度に対する整復	233
(整復)	233
(中・下部(位)胸椎の後弯過度〈ハイパー・カイホーシス〔hyper-kyphosis〕〕に 対する実践応用技法としての軽度の整復法(坐位)	233
(中・下部(位)胸椎の後弯過度〈ハイパー・カイホーシス〔hyper-kyphosis〕〕に 対する実践応用技法としての軽度の整復法(坐位変法)	233
(中・下部(位)胸椎の後弯過度〈ハイパー・カイホーシス〔hyper-kyphosis〕〕に 対する実践応用技法としての中度の整復法)	234
(中・下部(位)胸椎の後弯過度〈ハイパー・カイホーシス〔hyper-kyphosis〕〕に 対する実践応用技法としての重度の整復法)	235
2. 肋椎関節	236
(実技)	236
胸椎特に胸椎と肋骨の関節における偏位に対する整復	236
(実技の理論)	236
(整復)	236
(肋椎関節の偏位に対する実践応用技法)	236
〈第1肋椎関節拡張偏位に対する整復法〉	236

〈上部〔位〕〔第1～第7〕 肋椎関節における偏位に対する整復法)	238
〈上部〔位〕〔第1～第7〕 肋椎関節拡張偏位に対する整復法)	239
〈上部〔位〕〔第1～第7〕 肋椎関節収縮偏位に対する整復法)	240
〈上部〔位〕〔第2～第7〕 肋椎関節拡張偏位に対する整復法)	241
〈上部〔位〕〔第3～第8肋骨〕 肋椎関節後方偏位に対する整復法〔坐位〕)	242
〈上部〔位〕〔第3～第8肋骨〕 肋椎関節後方偏位に対する整復法〔坐位変法〕)	243
〈上部〔位〕〔第2～第3肋骨〕 肋椎関節側方圧縮偏位に対する整復法〔側臥位〕)	244
〈下部〔位〕〔第8～第12〕 肋椎関節における偏位に対する整復法)	245
〈下部〔位〕〔第8～第12〕 肋椎関節における収縮偏位に対する整復法)	245
〈下部〔位〕〔第8～第12〕 肋椎関節収縮偏位に対する整復法)	246
〈下部〔位〕〔第8～第12〕 肋椎関節拡張偏位に対する整復法)	246
〈下部〔位〕〔第6～第12肋骨〕 肋椎関節後方偏位に対する整復法〔側臥位〕)	247
〈中・下部〔位〕〔第4～第8肋骨〕 肋椎関節前後圧縮偏位に対する整復法〔側臥位〕)	248

3. 特発性側弯症 249

(実技の理論—実践応用技法としての側弯矯正の理論—)	249
(実践応用技法としての側弯矯正の実技)	250
〈第2胸椎)	250
〈第1胸椎)	250
〈中・下部胸椎)	251
[胸椎棘突起が下方へ下がっている場合]	251
〈下部胸椎〔第6～第12胸椎〕)	251
〈中部胸椎〔第3～第5胸椎〕)	252
[胸椎棘突起が上方へ上がっている場合]	253
〈中部胸椎〔右凸弯曲の頂点から上の場合〕)	253
〈下部胸椎〔右凸弯曲の頂点から下の場合〕)	254
IV 〈中・下部胸椎が全体に捻転している場合〔頸部を屈曲・伸展・左右回旋させ 向きづらさ・突っ張り感・疼痛のある場合〕の胸椎の整復法)	254
V (頸椎・胸椎側弯・捻転に対する実践応用技法としての安達の微調整法)	255
VI (胸椎側弯に対する実践応用技法としての安達の矯正法〔Adachi's Adjustment of Scoliosis〕)	256
VII オーンポッドを用いる方法	257

第6項 頸椎 258

(実技)	258
頸椎・後頭骨の偏位に対する整復	258
(整復)	258
(実践応用技法としての頸椎・後頭骨の偏位に対する整復法)	258
(頸椎棘突起の場合—背臥位—)	258
(後頭骨後頭隆起の場合—背臥位—)	259
〈後頭隆起が前・足方偏位している場合)	259
〈後頭隆起が側・足方偏位している場合)	259

〈後頭隆起が後・足方偏位している場合〉	259
(実践応用技法としての環椎後弓後方偏位に対する軽度整復法)	260
(下部頸椎棘突起左右偏位および上部頸椎横突起前後偏位に対する整復法—坐位—)	261
〈下部頸椎(第5～第7頸椎)棘突起左右偏位に対する整復法—坐位—)	261
(第6頸椎の整復法—例えば第6頸椎棘突起が左側偏位している場合—)	261
〈上部頸椎(第1～第4頸椎)横突起左右偏位に対する整復法—坐位—)	262
(第2頸椎の整復法—たとえば第2頸椎の左横突起が後方へ、右横突起が前方へ偏位している場合—)	262
(メリック・リコイル変法による整復法)	262
〈環椎後結節・軸椎棘突起回旋偏位している場合〉	262
(タッグル・リコイル変法による整復法)	264
〈環・軸椎の後結節・棘突起にそれぞれ右方偏位そしてそれらの右横突起に側方偏位および環椎前弓前面・軸椎椎体前面にそれぞれ上方偏位がある場合〔その結果、右にわずかに向きづらく、下にかなり向きづらい場合〕〉	264
(頸椎棘突起下前方偏位に対する実践応用技法としての屈曲〈後方〉整復法)	265
〈下部頸椎の棘突起が下方そして前方へ偏位しているため、坐位で触診すると陥没して感じる場合〉	265
(頸椎横突起前方偏位による横突起およびその周囲の圧痛および疼痛・鈍痛に対する実践応用技法としての頸椎横突起左右同時整復法)	266
〈上部頸椎〉	266
〈下部頸椎〉	267
(頸椎横突起前方偏位による横突起およびその周囲の圧痛および疼痛あるいは鈍痛に対する実践応用技法としての頸椎横突起左右同時整復における安達の変法)	268
(頸椎における側屈制限に対する実践応用技法としての局部的整復法—坐位—)	269
(頸椎横突起側方偏位による横突起およびその周囲の圧痛および疼痛あるいは鈍痛に対する実践応用技法としての整復法)	270
(頸椎横突起側方および回旋偏位による横突起およびその周囲の圧痛および疼痛あるいは鈍痛に対する実践応用技法としての整復法)	270
(後頭骨の伸展〈前方〉偏位に対する屈曲〈後方〉牽引整復法)	271
(頸椎前弯過度に対する後頭部筋のストレッチと椎間孔の解放)	271
(頸椎前弯度低下に対する後頭部筋ストレッチ)	271
(後頭骨の屈曲〈後方〉偏位に対する伸展整復法)	272
(環軸関節における回旋制限および環椎後頭関節における屈伸制限に対する実践応用技法としてのマニピュレーション)	272
〈環軸関節における回旋制限に対するマニピュレーション〉	272
〈環椎後頭関節における屈伸制限に対するマニピュレーション〉	273
(制限に基づく頸部筋起始における偏位による諸症状に対する整復法)	273
〈屈曲制限に基づく僧帽筋の場合〉	273
〈伸展制限に基づく胸鎖乳突筋の場合〉	274
〈屈曲制限に基づく胸鎖乳突筋の場合〉	274

第7項 顎関節 (側頭下顎関節)	274
(実技)	274
顎関節神経症に対する補助的ケアとしての上顎骨に対する療法	274
(実技の理論)	274
(整復)	275
(顎関節神経症に対する補助的ケアとしての上顎骨に対する療法)	275
〈閉口位からある程度の開口位をとらせる安達の方法〉	275
〈上顎骨に対する補助的ケアとしての療法〉	275
(整復)	275
(片側性顎関節症における関節円板の前方偏位に対する徒手矯正法)	275
(実技)	276
顎関節 (側頭下顎関節) 両側性前方脱臼に対する整復	276
(実技の理論)	276
(整復)	276
(顎関節両側性前方脱臼に対する整復法の顎関節症における関節円板の前方転位に対する応用としての徒手矯正法)	276
第4節 軟組織	281
第1項 頭部	281
(実技)	281
ベル現象・眼精疲労・視力低下・突発性難聴・メニエール症候群・後頭神経痛に対する療法	281
(実技の理論)	281
(整復)	281
(ベル現象 (Bell's phenomenon) に対する療法)	281
(実技の理論)	281
(整復)	282
(術前の大腿内転筋チェック)	282
(眼精疲労・視力低下に対する操体法 (自動介助抵抗運動))	282
(実技)	283
エウスタキオ管 (耳 [小] 管) に対する療法	283
(実技の理論)	283
(整復)	283
(実践応用技法としてのエウスタキオ管 (耳 [小] 管) に対する安達の療法)	283
(実技)	284
突発性難聴・メニエール症候群に対する療法	284
(実技の理論)	284
(整復)	284
(整復)	285
(実践応用技法としての後頭神経痛緩和法)	285

第2項 胸部 286

（実技）	286
咽喉炎・小児喘息・局部的呼吸気制限に対する療法	286
（整復）	286
（実践応用技法としての咽喉炎に対する療法）	286
（実践応用技法としての舌骨周囲の圧痛に対する調整法）	287
（実践応用技法としての小児喘息体操）	287
（“誘い活”について）	288
（肺の局部的呼吸制限に対する介助法）	288
（肺の局部的吸気制限に対する介助法）	289

第3項 腹部および体性内臓反射 290

（実技）	290
横隔膜・結腸・肝臓・胆嚢・食道胃移行部・胃	290
（整復）	290
（実践応用技法としての横隔膜の治療法）	290
〈横隔膜の痙攣からくる“しゃっくり”が止まらない場合の療法〉	290
〈横隔膜の整復法〉	290
（実践応用技法としての結腸性便秘などに対する結腸蠕動促進運動）	291
（実践応用技法としての肝機能低下・胆道障害などに対する肝機能・利胆作用促進運動）	295
〈肝機能の活性化〉	295
〈利胆作用促進運動〉	295
〈胆汁分泌促進運動〉	295
（実践応用技法としての食道胃移行部における横隔膜の裂孔への付着からの引き離し法）	296
（実践応用技法としての胃部膨満感などに対する安達の胃部蠕動促進運動）	296
（実践応用技法としての肝機能低下・胃部膨満感などに対する肝機能促進および胃部蠕動促進のための総合運動）	297
（実技）	298
痔疾等（頻尿・前立腺炎・卵巣痛等を含む）に対する関連軟部組織の弛緩	298
（実技の理論）	298
（整復）	298
〈実践応用技法としての痔疾等に対する仙結節靭帯および仙棘靭帯の弛緩法〉	298
〈実践応用技法としての痔疾に対する上・下尿生殖隔膜筋膜および上・下骨盤隔膜筋膜の弛緩法〉	299
（実技）	301
ニー・チェスト・ポスチャー（Knee-Chest Posture）による体性内臓反射法	301
（実技の理論）	301
（背部からその腹部へ安達の叩打検査〈punching test〔パンチング・テスト〕〉）	301
（整復）	302

（体性内臓反射法）	302
（整復）	305
（結腸下垂症に対する整復）	305
〈回盲部における滞留解消〉	305
〈結腸持ち上げ法〉	305
（実技）	305
脾臓周囲の筋肉に対する弛緩	305
（実技の理論）	305
（弛緩法）	306

第3章 骨格の性差および年齢差と骨伝導による骨折の有無に関する見立て法 309

第1節 骨格の性差および年齢差について 311

第2節 骨伝導による骨折の有無に関する見立て法 315

第4章 自動体外式除細動器（Automated External Defibrillator〈AED〉）について 317

第1節 AEDとは？ 319

第2節 心疾患による死亡から市民を救え！ 321

第3節 市民によるAEDの使用が何故必要なのか？ 323

第4節 心室細動すなわち突然の心停止の主因の状態に対する固定概念と現実との相違点 325

第5節 「救命の連鎖」とは？ 327

第6節 1次救命措置における用の手順 329

第1項 意識確認 329

第2項 119番通報およびAED手配 329

第3項 気道確保（Airway opening〈A〉） 329

第4項 呼吸確認 330

第5項 人工呼吸（Breathing restored〈B〉） 330

1. 喉頭切除患者（laryngectomee） 331

2. 喉頭切除患者（laryngectomee）のための救急法 331

3. 口対気門（stoma）呼吸法（mouth-to-stoma method）の利点 332

第6項	循環のサイン	333
第7項	心(臓) マッサージ (Circulation restored <C>) (胸骨圧迫)	333
第8項	AED の操作	334
第5章 己も生きよ他も生かせ 337		
第1節 歴史 339		
第1項	わが国における正骨(接骨・整骨を含む)の歴史	339
	(大国主命と少彦名命)	339
	(高志鳳翼 <こうしほうよく>)	341
	(「解體(体)新書」全5冊)	342
	(各務文献 <かがみぶんけん>)	342
	(二宮彦可 <にのみやげんか>)	343
	(華岡青洲の通仙散の影響)	344
第2項	講道館柔道と整骨とカイロプラクティック	346
	(整骨師を訪ねまわる)	346
	(柔道家川口三郎とカイロプラクティック)	346
第3項	米国における手技学(オステオパシー・カイロプラクティックを含む)の歴史	347
	(米国における手技学前史)	347
	(米国における手技学の発祥)	348
第2節 法学 351		
第1項	六法とは?	351
第2項	法の分類には?	351
	1) 成文法と不文法とは?	351
	2) 一般法(普通法)と特別法とは?	352
	3) 公法と私法とは?	352
	4) その他の法の分類には?	354
第3項	法の解釈とは?	354
	1) 有権解釈とは?	354
	2) 無権解釈(学理解釈)とは?	355
第4項	憲法について	356
	1) 憲法とは?	356
	2) 国家とは?	356
	3) その場合、国家の三要素とは?	356
	4) 憲法の分類には?	357
	5) 議院内閣制と大統領制	357

第5項	日本の民主主義その法的ルーツは？	358
1)	船中八策について	358
2)	戦前における民主主義とは？	359
3)	日本国憲法制定への経過は？	360
第6項	日本国憲法の三原則について	361
1)	天皇の地位と国民主権とは？	361
2)	恒久平和主義とは？	361
3)	国民の権利および義務とは？	362
第3節	わが国における M.D. と D.C. の法的均衡について	365
第1項	Doctor of Chiropractic とは？	365
第2項	世界のカイロプラクティックの趨勢とその最近の動向	369
第3項	先進諸国のカイロプラクティックに対する対応とわが国の対応との比較	371
第4項	厚生省の通知医事 58 号に対する国際私法・国内法の考え方	372
第5項	「厚生省通知医事 58 号」への道	374
第6項	「国際私法」への道	374
第7項	「国内法」への道	374
第8項	第三の道	375
おわりに		378